

ほんわ館だより

令和8年4月発行
第163号

中山町立図書館
開館 10:00~19:00
休館日 4/6.13.20.27

4月の展示コーナー

- ★おすすめコーナー 『コミックエッセイ』
- ★2階掲示板 『学園生活がテーマの本』
- ★児童書コーナー
 - ・絵本コーナー 『ありがとう おひさま』 『のこさずたべよう』
 - ・円形コーナー 『図書館』
 - ・空中図書コーナー 『おうち』
 - ・小学生おすすめコーナー 『趣味をみつける』



★今月のおはなし会★
4月18日(土)11:00~11:30
場所:ほんわ館多目的室

4月にぴったりの本を
読むよ♪お楽しみに♪



＜ゴールデンウィーク期間中の休館日のお知らせ＞

4/27(月)	4/28(火)~5/4(月)	5/5(火)	5/6(水)
休館日	通常開館	休館日	通常開館

5月から9時
開館になります。

♪皆様のご来館をお待ちしております♪

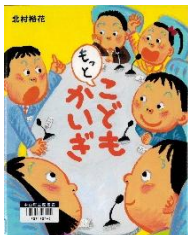
お誕生日おめでとう

4月30日にほんわ館が14歳
になります。皆さんに支え
られてここまで成長できま
した♪これからもお見守り
ください♪

新着 最近入った本を紹介しします

※ここに紹介した他にも
たくさん入っています

【児童書(えほん)】



◀『もっと
こどもかいぎ』
北村 裕花 // 作 絵
フレーベル館



◀『ジオと
しょうぼうしゃの
サバイバル』
韓 賢東 //
キャラクター原案



◀『呪いのスマホ』
有田 奈央 // 文
新日本出版社

【文芸書】書名	編著者名	【児童書】書名	編著者名
大河の一滴 最終章	五木 寛之 // 著	日本史年号ゴロ合わせへタイムワープ	ながい さき // マンガ
怪談怖気帳 なまくび団地	黒木 あるじ // 著	十年屋 9	廣嶋 玲子 // 作
咲良は上手に説明したい!	滝沢 志郎 // 著	はたらく農家	吉田 亮人 // 写真
のほほん人生 間借り鯛まさよ3	原 宏一 // 著	デコピンのとくべつないちにち	大谷 翔平 // 文
釣り侍	佐藤 賢一 // 著	ぼくがぼくであるために	蒼沼 洋人 // 著
ちょっと角の酒屋まで	角田 光代 // 著	【教養書】書名	編著者名
教場Ω	長岡 弘樹 // 著	動物のひみつ	アシュリー・ウオード // 著
チップス(上・下)	真山 仁 // 著	友だち以上恋人未満の人工知能	川原 繁人 // 著
サチコ	群 ようこ // 著	うきうき思いつきひとり遠足	たかぎ なおこ // 著
青青といく	永井 紗耶子 // 著	葬式坊主なむなむ日記	松谷 真純 // 著
がんと生ききる	落合 恵子 // 著	地図で訪ねる歴史の舞台	帝国書院 // 著
被告人、AI	中山 七里 // 著	福音派	加藤 善之 // 著
探偵小石は恋しない	森 バジル // 著	大切な家族を守る「おうち防災」	奥村 奈津美 // 著
幽民奇聞	恒川 光太郎 // 著	裏ワザ直伝! 野菜のびっくりおもしろ栽培	農文協 // 編



本の歳時記



—新しい扉を開ける君たちへ—

入学・進級・入社など4月は新しい出会いや挑戦が始まる季節です。胸がワクワクする一方で、生まれ育った土地を離れたり、初めての一人暮らしなど心細くて不安な人も多いのではないのでしょうか？そんな方たちの背中をそっと押してくれ、時には寄り添ってくれる本を紹介します。



『7.5グラムの奇跡』

『7.5グラムの奇跡』(砥上裕将//著 講談社)

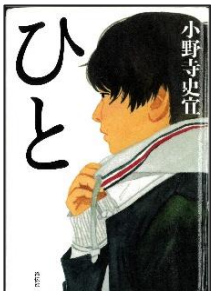
人の眼球の重さ約7.5g。人の瞳を見ることが好きな新人視能訓練士、野宮恭一はようやく北見眼科医院に就職が決まり勤め始めるが、失敗続き。目に異常がないのに心の問題で視力が低下した少女やカラコンがないと人前に出られない女性、緑内障を患った元ピアニスト…様々な目の悩みを抱えた患者や、病院の仲間たちと心を通わせながら少しずつ成長していくまっすぐな青年の物語です。



『宙わたる教室』

『宙わたる教室』(伊与原新//著 文藝春秋)

東京・新宿にある定時制高校。そこには様々な事情を抱えた生徒たちが通っている。不良仲間から抜け出せない柳田岳人をはじめ、年齢も育ってきた環境もバラバラな生徒たちが集っている。そんな彼らの元に謎めいた理科教師の藤竹が赴任してくる。藤竹の導きにより科学部を結成し、いつしか学会で発表することを目標に「火星のクレーター」を再現する実験を始めるが…この物語は、「学ぶのに遅すぎることはない」「人にはそれぞれの得意分野がある」「一緒に何かを作り上げることは素晴らしい」といった、何かをあきらめそうになった時にもう一度立ち上げられる勇気をくれる作品です。



『ひと』

『ひと』(小野寺史宜//著 祥伝社)

主人公柏木聖輔は20歳の秋、両親を亡くし、たった一人になった。大学は中退。仕事を探しているうちに東京の下町のお惣菜屋さんのコロッケををきっかけに、多様な「ひと」との縁が広がっていく。そういった縁に聖輔は包まれながら成長していきます。もし今、自分は一人だと感じていても、それは決して一人でなく、いつもどこからか差し伸べてくれる手と出会うことができる。そう信じさせてくれる作品です。シリーズでお楽しみください。

ほんわ館で読まれています

『沢村さん家のわくわくお買い物』

益田 ミリ//著 文藝春秋



年金暮らしの両親と40歳の娘との3人暮らし。気分が上がる大きな買い物もいいけど、明朝のパンを家族で選ぶのもわくわくして…。沢村家の日常を描いたホーム・コミック。

『風を織る』

あさのあつこ//著 実業之日本社



深川の縫箔(刺繍)屋・丸仙の娘、おちえは、燃え盛る火車と牡丹模様の不吉な小袖を本店「出雲屋」の別邸に届ける。剣を捨てた職人・一居も同行するが、邸内で5人の男に襲撃され…。

『しっぽのカルテ』

村山 由佳//著 集英社



信州の美しい木立に佇むエルザ動物クリニック。瀕死の野良の子猫、高齢犬ロビン、インコのタロウ。スタッフは日々運び込まれる動物たちの治療を懸命に続け…。感涙の動物病院ストーリー。

『教場Ω』

長岡 弘樹//著 小学館



T県警富葉署の刑事・石貫尊利は、若い女性が殺害された現場に臨場し、新人刑事の風間公親に再会する。捜査のさなか、T県ではさらにもう1件、若い女性が殺害される事件が発生し…。